

東京と大阪、雨の年合計と月別の違い

結果

2025年の降水量は東京1,152.5mm、大阪1,151.0mmで、年間ではほぼ同じだった。ただし、雨量の多い月の順は東京が5月・9月・4月、大阪が6月・5月・9月で異なる。年合計が近くても、雨の多い時期まで同じではない。

2024年と比較すると東京は773.5mm減、40.2%減。大阪は439.0mm減、27.6%減だった。6～8月の減少は、東京では年間減少の89.8%、大阪では41.5%に相当する。2024年のうるう年を考慮し、年の日数で割っても減少率は東京40.0%、大阪27.4%だった。

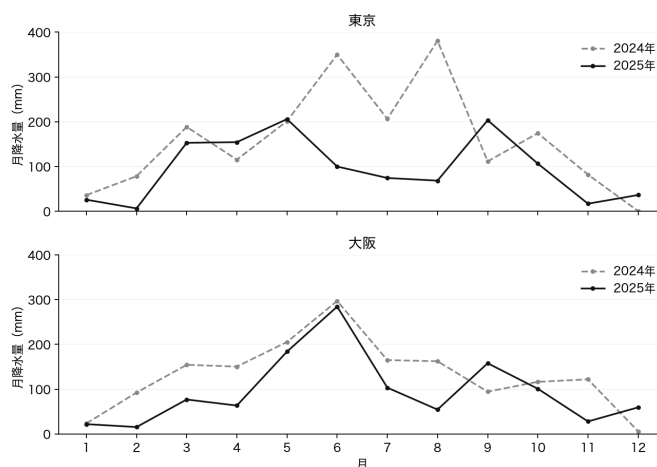
大阪では雨量の多い上位3か月が年合計に占める割合が42.0%から54.4%へ上昇した。東京は48.7%から48.9%でほぼ同じだったが、上位となる月はいれ替わった。

対象と限界

気象庁の東京・大阪の観測地点について、2024・2025年の月別値48行を集計した。地域全体の平均ではない。2年の比較から長期的な減少、豪雨の発生率、今後の天候は判断できない。

企業の記録で調べるなら

日別の来客数に、最寄り地点の降水量、営業日、曜日、販促、休業を対応させる。年間売上と年間雨量だけでは、雨天日の来客の違いを確認できない。



東京と大阪の月別降水量

出典：気象庁過去の気象データ検索の東京・大阪、2024・2025年の月別値を加工。2026年9月7日確認。気象庁の作成・承認ではない。